

【ふりかえり会議対象事業名】 守ろう清流！宮川流域いっせいチェック  
 【事業担当セクション名】 南勢志摩県民局 企画調整部 宮川流域ルネッサンスプロジェクト  
 【ふりかえり会議実施日時】 2005/3/8(木)14:00～16:00  
 【ふりかえり会議実施場所】 三重県南勢志摩県民局 第4会議室

|                             |  |  |           |     |
|-----------------------------|--|--|-----------|-----|
| 記入者名                        | 瀧尻富士雄  | 坂本照子   | 門野正信      | 中森巖 |
| 所属                          | 宮川流域ルネッサンスP  |  |           |     |
| 完了期                         |  |  |           |     |
| <b>I 事業の結果</b>              |  |  |           |     |
| 1. 問題発生時の体制                 | ?<br>→毎月定例開催のワークショップでの対応は可能。   | はい   | ?         | はい  |
| 2. クレームの吸い上げとフィードバック        | ?  | はい   | ?         | ?   |
| 3. 事業実施後の振り返り               | はい   | はい   | はい        | ?   |
| <結果>                        | 毎月定例のワークショップで毎月の進捗状況を確認めると共に年度末に年度全般のふりかえりを行っている。  | まだ、継続しています。  | 未記入       | 未記入 |
| 4. 成果の達成                    | はい   | ?  | ?         | ?   |
| <成果>                        | ・年間10階の流域51ポイントでの水環境定期いっせい調査<br>・ワークショップ毎月開催<br>・発表交流会、全体説明会開催<br>・流域住民啓発パンフレット作成・全戸配布（予定） | 継続中  | 未記入       | 未記入 |
| 5. 事業の将来展望                  | はい   | はい   | はい        | はい  |
| <課題解決のための改善提案>              | ・県委託事業から発展的自立に向け、ルネッサンス協議会等の支援等地域での活動費確保を図る。<br>・水質保全是森林問題などとも大きく関わるため、自主的勉強会を立ち上げた。       | 調査にどどまることなく、解決のための活動を探り、実践したり、それぞれへの対応プロジェクトを組織した。 | 宮川流域産業の構築 | 未記入 |
| <b>I 事業の結果で「はい」と答えた数</b>    | 3  | 4  | 2         | 2   |
| <b>II 事業の成果</b>             |  |  |           |     |
| 1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度   | ?  | ?  | ?         | ?   |
| <受益者の満足の声>                  | 未記入  | 未記入  | 未記入       | 未記入 |
| 2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度 | はい   | ?  | ?         | ?   |

| 記入者名              | 瀧尻富士雄   | 坂本照子                               | 門野正信      | 中森巖 |
|-------------------|---|------------------------------------|-----------|-----|
| 所属                | 宮川流域ルネッサンスP   |                                    |           |     |
| <資源提供者の満足の声>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月の調査結果はホームページにわかりやすくかつ詳細に掲載し、結果のまとめ（考察）でも解説している。</li> <li>・ 調査スタッフを中心に配布する会報誌「51ポイント通信」も年3回程度発行し情報提供を行っている。</li> <li>・ 意見を聞く機会は、一般住民を対象とした発表交流会で意見交換の場を持ち、次につなげる機会としている。</li> <li>・ 宮川大好き宣言キャンペーンを通じ、より広範な人々を対象として水質保全活動への理解と参加を求めている（仲間づくりによる水質保全の輪づくり）</li> </ul> | 継続中ではあるが、今までの時点では良好な関係作りが出来たと思う。   | 未記入       | 未記入 |
| 3. 人々の自立性の向上      | はい  | はい                                 | はい        | ?   |
| 4. 新たなネットワーク      | はい  | ?                                  | はい        | はい  |
| 5. 地域や社会に与えたインパクト | ?   | はい                                 | ?         | ?   |
| <事業が地域や社会に与えた影響>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流域全戸配布の啓発パンフレットの作成・配布により、流域住民の意識に訴えることができた。</li> <li>・ 発表交流会での記念講演（家庭用廃食油のBDF化、菜の花栽培による地域循環型社会づくり）を通して、将来の具体的なビジョン</li> </ul>  | ほんの少しではあるが、そのような方向が感じられた。          | 未記入       | 未記入 |
| Ⅱ 事業の成果で「はい」と答えた数 | 3   | 2                                  | 2         | 1   |
| Ⅲ 実施の結果           |   |                                    |           |     |
| 1. 協働意識の醸成        | はい  | はい                                 | ?         | はい  |
| 2. 協働の満足度         | はい  | はい                                 | はい        | はい  |
| 3. 協働のコストの分担      | はい  | いいえ                                | はい        | ?   |
| <生じた負担感>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月開催のワークショップは流域全域が範囲のため、参加者の負担軽減のために話し合いで流域中央部（大台町）での開催（平日夜）とした。</li> </ul>  | 未記入                                | 資金（予算）の不足 | 未記入 |
| 4. 今後の協働の改善       | はい  | はい                                 | はい        | はい  |
| <改善ポイント>          | 財源課題については自立への方途を探るため、2年に渡る検討のなかで、県費依存から流域協議会を含む自主財源確保へのシフトを図るべく、円卓会議での提案機会なども活用し地域主体の方向で検討を重ねている。   | 熱い思いと積極的な姿勢に見合うスタッフの増員と予算措置を期待したい。 | 資金の捻出     | 未記入 |
| 5. 結果の公開と説明責任     | はい  | はい                                 | はい        | はい  |
| Ⅲ 実施の結果で「はい」と答えた数 | 5   | 4                                  | 4         | 4   |
| 完了期で「はい」と答えた数の合計  | 11  | 10                                 | 8         | 7   |

# 2004(平成16)年度 当初予算 基本事業目的評価表

|       |                       |              |     |                      |    |      |
|-------|-----------------------|--------------|-----|----------------------|----|------|
| 基本事業名 | 53302 宮川流域ルネッサンス事業の推進 |              |     |                      |    |      |
| 評価者   | 所属                    | 地域振興部資源活用チーム | 職名  | マネージャー               | 氏名 | 中川輝一 |
|       | 電話番号                  | 059-224-2011 | メール | nakagt01@pref.mie.jp |    |      |
| 評価年月日 | 2004年1月30日            |              |     |                      |    |      |

|               |          |                              |
|---------------|----------|------------------------------|
| 政策・事業体系上の位置づけ | 政策:      | 活力ある地域づくりの推進                 |
|               | 施策:      | 533 流域圏づくりの推進                |
|               | 施策の数値目標: | きれいな水質を保持している一級河川の割合(10ヶ年平均) |

|         |                                |   |
|---------|--------------------------------|---|
| 基本事業の目的 | 【誰、何が(対象)】                     | 宮川流域が   |
|         | 【抱えている課題やニーズは】                 | 宮川は全国有数の清流として知られているが、近年、小雨化傾向や生活排水、産業排水の流入、森林形態の変化などの中で、水量の減少、水質の汚濁、景観や生態系への影響が指摘されるようになっていく。 |
|         | という状態を                         |   |
|         | 【どのような状態になることを狙っているのか(意図)】     | 流域全体で地域の環境を大切に、地域がいきいきしている。   |
|         | という状態にします。                     |   |
|         | その結果、どのような成果を実現したいのか(結果=施策の目的) | 一級河川7流域をはじめとする県内の流域が流域全体で地域の環境を大切にして、活性化している  |
|         |                                |   |
|         |                                |   |

## 基本事業の数値目標、コスト、マネジメント参考指標

|                                       |    | 2001 | 2002 | 2003 | 2004   | 2006    |
|---------------------------------------|----|------|------|------|--------|---------|
| 宮川の水質ランキング(位)<br>[目標指標]               | 目標 |      | 1    | 1    | 1      | 1       |
|                                       | 実績 | 1    | 2    | 1    |        |         |
| 必要概算コスト(千円)                           |    |      |      |      | 94,156 | 0       |
| 予算額等(千円)                              |    |      |      |      | 53,971 |         |
| 概算人件費(千円)                             |    |      |      |      | 40,185 | 0       |
| 所要時間(時間)                              |    |      |      |      | 9,500  |         |
| 人件費単価(千円/時間)                          |    | 4.21 | 4.30 | 4.23 | 4.23   |         |
| 必要概算コスト対前年度(千円)                       |    |      |      |      |        | -94,156 |
| ホームページ月平均アクセス数<br>(件)<br>[マネジメント参考指標] | 目標 |      | 1200 | 1400 | 1600   |         |
|                                       | 実績 | 1000 | 1251 | 1446 |        |         |
| [マネジメント参考指標]                          |    |      |      |      |        |         |
| [マネジメント参考指標]                          |    |      |      |      |        |         |

|              |  |
|--------------|--|
| [マネジメント参考指標] |  |
| [マネジメント参考指標] |  |
| [マネジメント参考指標] |  |

数値目標に関する説明・留意事項  
 国土交通省が全国の一級河川で実施している水質調査での水質全国ランキング。平成13年は全国2位、平成14年は全国1位と全国有数の水質を維持しており、平成15年も全国1位を目指す。  
 2003年度の実績値は、2004年1月現在の見込み値です。

|   | 種類 | マネジメント参考指標     | 困難度    |
|---|----|----------------|--------|
| 1 |    | ホームページ月平均アクセス数 | 挑戦的な目標 |
| 2 |    |                |        |
| 3 |    |                |        |
| 4 |    |                |        |
| 5 |    |                |        |
| 6 |    |                |        |

2004年度 マネジメント参考指標

<参考>マネジメント参考指標の種類  
 事業量(必置)＝主要な活動に関する参考指標(アウトプットなど)  
 協働度(必置)＝対象者や他団体等との連携・協働に関する参考指標(意見反映件数等)  
 比較(任意)＝他団体等との比較に関する参考指標(全国順位など)  
 副次的(任意)＝間接的・副次的な効果や成果に関する参考指標(アウトカムなど)

2004年度 マネジメント参考指標に関する説明・留意事項

基本事業の評価

2003年度の取組内容

成果の達成見込み  
 概ね順調  
 これまでの取組内容と成果(見込み)、成果を得られた要因と考えられること  
 宮川流域ルネッサンス事業第2次実施計画実現に向けて、円卓会議の場を活用して、流域の住民との議論を深め、地域主導の体制への移行を進めました。  
 また、宮川流域の自然や歴史資源を保全して活用する宮川流域エコミュージアム事業においては、流域案内人の活性化と市町村と連携した地域への定着が課題であり、エコミュージアム推進計画の策定にあたり、住民意識調査を実施し、計画への反映をはかりました。  
 さらに、日本一の宮川の環境をみんなで守るため、住民が直接参画して進めている「守ろう清流！宮川流域いっせいチェック」を推進し、流域の住民の自立的な取り組みを推進しました。

翌年度以降に残る(見込みの)課題、その要因と考えられること  
 第2次実施計画実現にあたり、地域の自立的な取り組みの活性化が求められており、協議会における円卓会議への住民の積極的な参画が課題となります。  
 宮川流域ルネッサンス協議会については、協働の取り組みは順調に実施されていますが、市町村との更なる連携が必要です。  
 流量回復の実現については、利害関係者等関係者との調整が不可欠であり、具体的な展開にむけ、関係機関との協議を続ける必要があります。

基本事業の展開

2004年度 施策から見たこの基本事業の取組方向

基本事業間の戦略での位置づけ  
 注力  
 総括マネージャーの方針・指示  
 → 宮川流域ルネッサンス協議会と連携して、第二次実施計画を推進し、流域住民、市町村との協働をより一層進め、地域の自立的な活動を促進すること。

<参考>注力:取組への思い入れや経営資源投入など施策の中での力の入れ具合  
 ↑＝相対的に力を入れて取り組んでいく  
 →＝従来どおりの力の入れ具合で取り組んでいく  
 ↓＝相対的に力の入れ具合を抑えていく

|              |   |
|--------------|---|
| 2004年度の取組方向  | 第2次実施計画実現に向けて、円卓会議の場を活用して、流域の住民との議論を深め、地域主導の体制への移行を進めるとともに流域の課題として取り上げられた内容について、関係市町村と協議連携して実現に向けて支援していきます。<br>宮川流域エコミュージアム事業を推進するため推進計画に基づき、流域の住民、市町村を核とした具体的な取り組みを進め、全国的なPRを進めます。<br>また、住民主導のエコミュージアムづくりを進めるため、エコミュージアムの核となる地域の熱い想いを伝える流域案内人を養成するとともに、市町村と連携して基盤の整備を進めます。 |
| 総合行政の視点からの取組 | 流域の課題の具体的な解決にむけて、関係部局や県民局との連携を引き続き進めます。特に円卓会議への関連部局の参画を求めることにより、実効ある対応の実現を図ります。   |

2004年度 構成する事務事業間の戦略(注力) (要求額:千円、所要時間:時間)

| 事務事業名  | 要求額    | 対前年    | 所要時間  | 対前年   | 注力           | 貢献度合 | 効果発現時期 |
|--|--------|--------|-------|---|--------------|------|--------|
|  | 事業概要   |        |       |   | マネージャーの方針・指示 |      |        |
| A 日本一の宮川をみんなで守ろう！推進事業  | 9,939  | -3,311 | 2,350 | 0   | ↑            | 間接的  | 中期的    |
| 平成14年度みたび全国一位と全国有数の水質をほこる清流宮川を守るため、宮川流域のかかえる水問題、環境問題及び地域振興課題を上流から下流まで一体的にとらえ、総合的に解決を図る宮川流域ルネッサンス事業を推進します。<br>事業の推進にあたっては、総合行政で取り組むと共に、流域の人々の主体的な活動が必要であることから、地域に根ざした自立的な活動を促進する事業を重点的に実施します。 |        |        |       | 流域の住民が主体的に参画できる活動を実施し、自立的な活動につなげること。                          |              |      |        |
| B 「宮川流域をメジャーに！」推進事業費   | 5,494  | -135   | 2,380 | 0   | →            | 間接的  | 中期的    |
| 全国有数の清流である宮川流域を「日本一の清流」として内外に認知してもらうとともに、宮川流域ルネッサンス事業の趣旨の周知を図る為、普及啓発活動を行います。<br>宮川流域の協働の取り組みは全国的に注目をあびつつありますが、地域主導の取り組みとして、定着を図るため、ルネッサンス協議会の活動を支援して、活動を活性化させ、流域内外へのアピールを推進します。              |        |        |       | 宮川流域ルネッサンス事業を流域内外および全国的にPRするため、協議会ホームページと連携して、より一層の情報提供を行うこと。 |              |      |        |
| C 宮川流域エコミュージアム推進事業   | 5,068  | -6,039 | 2,400 | 0   | ↑            | 間接的  | 中期的    |
| 「人と自然の共生」のシンボルプロジェクトである宮川流域エコミュージアム事業を宮川流域14市町村で推進します。<br>宮川流域エコミュージアムは地域の環境を保全しつつ、地域の資源を活用して自立的な地域づくりを進めるもので、地域の熱い想いを伝える流域案内人との連携を促進し、身近で魅力的なフィールドを地域とともに創りあげていきます。                         |        |        |       | 地域の熱い想いを伝える流域案内人の養成、連携を促進し、身近で魅力的なフィールドを地域とともに創りあげていくこと。      |              |      |        |
| D 宮川流域エコミュージアム整備事業   | 25,470 | 611    | 1,220 | 0   | ↑            | 直接的  | 中期的    |
| 宮川流域エコミュージアムを多くの住民が参画しやすくするための基盤整備を市町村や住民と連携して実施し、全国的にも注目される宮川流域エコミュージアムづくりを進めます。  |        |        |       | 市町村と流域案内人の連携を促進する事業を支援していくこと。                                 |              |      |        |
| E 宮川流域エコミュージアム流域案内人養成事業  | 8,000  | 0      | 1,150 | 0   | ↑            | 直接的  | 中期的    |
| 宮川流域エコミュージアム事業において、人材育成はその核となるものであり、継続的、計画的に流域案内人の育成や資質向上を支援し、住民主導の体制確立をめざして、集中的な人材育成を実施します。   |        |        |       | 地域の熱い想いを伝える流域案内人を養成し、住民主導の体制づくりを支援していくこと。                     |              |      |        |

<参考> 貢献度合: 直接的=基本事業の目的達成などに直接関連・影響する  
間接的=基本事業の目的達成などへの関連・影響の度合が副次的で、相対的に低い  
考慮外=基本事業の成果への関連・影響の度合が副次的で、相対的に低い

<参考> 効果発現時期: 即効性=基本事業の目的達成などに2年以下で効果を出す  
中期的=基本事業の目的達成などに概ね3年～5年で効果を出す  
長期的=基本事業の目的達成などに概ね6年以上で効果を出す

|           |       |    |               |                |
|-----------|-------|----|---------------|----------------|
| 休廃止する事務事業 | 事務事業名 | 理由 | 2003年度予算額(千円) | 2003年度所要時間(時間) |
|-----------|-------|----|---------------|----------------|

## 事業概要

平成 年 月 日記入

|  |
|--|
| <b>基本事業名</b>   |
|  |
| <b>ふりかえり会議対象事業名</b>  |
| 三重県宮川流域エコミュージアム大会  |
| <b>担当部署名</b>   |
| 南勢志摩県民局企画調整部宮川流域ルネッサンスP  |
| <b>担当者名及び連絡先：電話番号（市外局番からお願いします）</b>  |
| 滝尻 富士雄（0596-27-5411）   |
| <b>予算額</b>   |
| 9,939千円（内NPOへ2,718千円）  |
| <b>NPOとの協働方法</b>   |
| 委託   |
| <b>事業におけるNPOの果たす（期待する）役割</b>   |
| 流域14市町村に根ざした唯一の広域協議会である宮川流域ルネッサンス協議会が、流域住民、各種団体、学校等との協働で宮川水環境の実態調査や普及啓発を行うに当たり、その要になる。 |
| <b>事業概要</b>  |
| 宮川流域ルネッサンス協議会が、流域住民、団体、学校等と連携して宮川の水環境の実態を調査し、その成果を広く普及すると共に、流域住民等への啓発を行う。              |

この事業概要は、毎年提出された協働事業リストと同一の内容を記載しています。もし変更点等があれば記入してください。

# 平成16年度宮川流域ルネッサンス 「守ろう清流！宮川流域いっせいチェック」ワークショップ 活動経過

平成17年2月末現在

(平成16年)

- ・ 4/18 (日) クリーン小作戦、宮リバー河川敷及び伊勢市船江松尻川にて実施。
- ・ 4/21 (水) 宮川流域ルネッサンス協議会総会にていっせいチェック予算が承認され、門野ファシリテーターがいっせいチェックの取り組みを報告(ウエルビル伊勢)。
- ・ 5/19 (水) 第1回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 全国調査・調査方法・調査箇所等検討
- ・ 5/30 (日) 調査スタッフ全体説明会(大台町健康ふれあい会館) 水質パック渡し
- ・ 6/6 (日) 全国一斉調査基準日(5月度調査分(第1回目))
- ・ 6/27 (日) 6月度調査基準日(第2回目)
- ・ 6/29 (火) 宮川流域ルネッサンス協議会幹事会にて二見町の廃油リサイクル(BDF)取り組みを住民課長より紹介、パッカー車体験も
- ・ 6/30 (水) 全国一斉調査報告書を流域で取りまとめ、全国一斉調査事務局(東京)へ報告書提出。
- ・ 7/7 (水) 国土交通省全国一級河川水質調査結果発表で宮川が2年連続で日本一認定(平成3年、12年、14年、15年)
- ・ 7/14 (水) 第2回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、H17年度以降のあり方議論等
- ・ 7/25 (日) 7月度調査基準日(第3回目)
- ・ 7/28 (水) 度会町教育振興会環境教育部会にて話題提供(小川郷小)
- ・ 8/1 (日) 第9回円卓会議「地域振興」(庁舎)
- ・ 8/4 (水) 地域の個性を生かした流域圏づくり情報交換会(津)
- ・ 8/12 (木) 第1回調査結果をホームページに掲載(H16年度初)
- ・ 8/24 (火) 第3回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論等
- ・ 8/29 (日) 8月度調査基準日(第4回目)
- ・ 8/30 (月) 第2回調査結果考察をホームページに掲載(6月分)
- ・ 8/30 (月) 二見町住民課へ家庭用廃油リサイクル取組みのリバーボイス取材
- ・ 9/3 (金) H16年度51ポイント通信創刊号完成、配布開始
- ・ 9/17 (金) ~18(土) 宮川流域エコミュージアム全国大会(7リナ、15分散会)
- ・ 9/22 (水) 第4回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論、先進地調査等
- ・ 9/26 (日) 9月度調査基準日(第5回目)
- ・ 9/29 (水) 台風21号・大雨による災害発生(宮川村(7名死亡・行方不明)、伊勢市)
- ・ 10/4 (月) 第3回調査結果考察をホームページに掲載(7月分)
- ・ 10/7 (木) 住民啓発パンフ第1回編集会議(庁舎)
- ・ 10/19 (火) //第2回編集会議(庁舎)
- ・ 10/23 (土) 第10回円卓会議(流量回復・水質保全)(庁舎)
- ・ 10/24 (日) 川と海のクリーン大作戦(国交省中部建設局管内)
- ・ 10/26 (火) 第5回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、円卓会議ファシリテーター提案議論、先進地調査等
- ・ 10/31 (日) 10月度調査基準日(第6回目)
- ・ 11/10 (水) 第4回及び5回調査結果考察をホームページに掲載(8・9月分)
- ・ 11/12 (金) 住民啓発パンフ第3回編集会議(庁舎)
- ・ 11/21 (日) 宮川上流災害現地調査(松原、大杉、久豆方面)
- ・ 11/26 (金) 第6回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 上流災害現地調査結果報告、考察HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、円卓会議ファシリテーター提案議論、先進地調査等
- ・ 11/28 (日) 11月度調査基準日(第7回目)
- ・ 12/6 (月) 住民啓発パンフ第4回編集会議(庁舎)
- ・ 12/15 (水) 天地の恵み会を訪問し、住民パンフ用子供絵画、誌の作品借用
- ・ 12/16 (木) 宮川流域大好き宣言キャンペーン活動伊勢市役所ロビーで実施(両坂本さん呼びかけ)。5名参加で55名の賛同を得る。
- ・ 12/21 (火) 第7回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) キャンペーン報告、考察HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、51ポイント通信検討、円卓会議ファシリテーター提案議論、先進地視察検討等
- ・ 12/24 (金) 身近な水環境の全国いっせい調査(第1回)の結果発表(国交省)
- ・ 12/26 (日) 12月度調査基準日(第8回目)

(平成17年)

- ・ 1 / 5 (水) 第6、7回調査結果考察をホームページに掲載(10・11月分)
- ・ 1 / 13 (木) 住民啓発パンフ第5回編集会議(夜・庁舎)
- ・ 1 / 17 (月) 自主勉強会「流域再生検討会(第1回)」(門野・田中氏呼びかけ・7名参加・大台・夜)
- ・ 1 / 26 (水) 第8回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 考察 HP 公表事前検討、発表交流会等検討、住民パンフ検討、51ポイント通信検討、先進地視察検討等
- ・ 1 / 29 (土) 第11回円卓会議(第3回森林保全)(庁舎)
- ・ 1 / 30 (日) 1月度調査基準日(第9回目)
- ・ 2 / 4 (金) 第8回調査結果考察をホームページに掲載(12月分)
- ・ 2 / 5 (土) 守ろう清流! 宮川流域いっせいチェック発表交流会開催(85名参加・カサノブ伊勢): 流域代表発表、代表専門家解説、記念講演(二見町 BDF、菜の花プロジェクトネットワーク)、「川よ」合唱、意見交換、各種展示等
- ・ 2 / 5 (土) H16年度51ポイント通信第2号完成、配布開始(発表交流会にて)
- ・ 2 / 9 (水) 滋賀県へ先進地視察: あいとうエコプラザ(BDFプラント、くん炭プラント等)、琵琶湖博物館(12名参加)
- ・ 2 / 23 (水) 第9回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 考察 HP 公表事前検討、発表交流会・先進地視察結果報告等、住民パンフ検討、51ポイント通信検討、円卓会議ファシリテーター提案議論等
- ・ 2 / 27 (日) 2月度調査基準日(第10回目・最終)



平成16年度

事業名 日本一の宮川をみんなで守ろう！推進事業費（継続）

### 目的

県内一級河川随一の清流である宮川は、平成14年国の調査でみたび水質日本一となった。この清流宮川を維持・発展させていくため、流域に住む住民等は、市町村の枠や行政・民間の垣根を越え流域ビジョンに基づく流域圏づくりを促進していくことが重要な課題である。このため、この全国一級の清澄な水質を今後とも維持するとともに官・民協働をより推進するために、宮川流域ルネッサンス協議会が中心となって流域住民・NPO・学校等が連携して宮川水環境の実態を調査し、その成果を広く普及啓発するとともに、当協議会が主催する円卓会議の議論と連携し宮川流域水質保全課題の流域圏的解決に資する。

### 内容

#### (1) 流域住民水環境調査

流域には、生活排水のほかに農地系の肥料農薬や各種事業所等からの産業系排水が河川流入しているが、当流域では大規模産業施設が少なく飲食店等小規模事業所のウエートが高いため法定基準以下の未処理産業系排水流入が多い。そこで、前年度に実施した地域ごとの汚染パターン調査の成果を踏まえ、昨年に引き続き対象を絞った流域住民協働型の実態調査を行う。

##### ・実施項目

##### ・流域水環境調査

○川の状態（河川ゴミ、臭気等）

○水質パックテスト（PH, COD, 亜硝酸、アンモニア、リン酸）

○水生生物調査（底生成物一沢ガニ、トビケラ、イトミミズ、藻類等）

##### ・調査箇所数

50 箇所

#### (2) 啓発パンフレット作成、配布

上記各種調査で把握された実態を踏まえ、3カ年調査の結果も取り入れながら、住民協働の啓発パンフレットを作成し、流域全戸（約8万戸）に配布する。

#### (3) 宮川流域水環境調査発表会

いっせいチェックの調査結果を広く一般に普及する発表会を開催する。

開催予定日 平成16年11月（休日）

### 事業実施期間

平成16年度

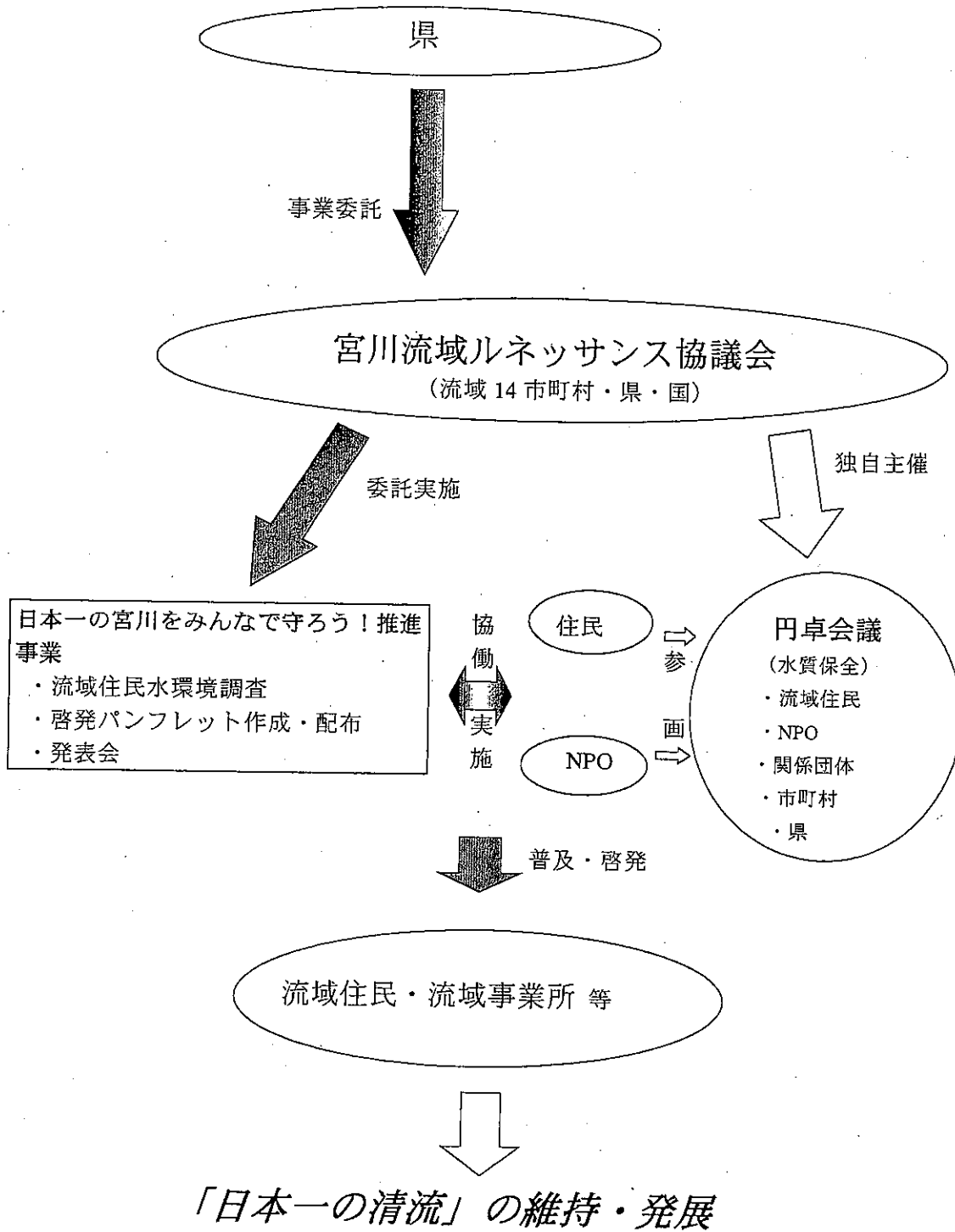
### 事業費

2,718 千円

### 委託先

宮川流域ルネッサンス協議会

日本一の宮川をみんなで守ろう！推進事業の仕組み  
( □ (四角) 枠内が当該事業)



平成16年度 守ろう清流！ 宮川流域いっせいチェック 年間スケジュール(見込み)

平成16年11月 宮川流域ルネッサンス協議会

|                         | 4月             | 5月                             | 6月   | 7月                                     | 8月                         | 9月                         | 10月                        | 11月                        | 12月                        | H16年1月                           | 2月                    | 3月                          |
|-------------------------|----------------|--------------------------------|--|--|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 行事計画                    | 調査スタッフ募集       | 説明会                            | 全国いっせい調査参加                                 | HP掲載                                   | HP掲載                       | HP掲載                       | HP掲載                       | HP掲載                       | HP掲載                       | HP掲載                             | HP掲載                  | HP掲載                        |
| 実施者                     | 実施計画検討         |                                | 調査スタート(～3月)                                | 交流会・パンフレット企画検討                         | 交流会・パンフレット企画検討             | 交流会・パンフレット企画検討             | 交流会・パンフレット企画検討             | 交流会・パンフレット企画検討             | 交流会・パンフレット企画検討             | パンフレット案作成                        | パンフレット案検討             | 発表交流会、パンフレット案検討             |
| ルネッサンス協議会               | 県から受託          | 説明会(5/30)                      | 調査結果中間集計<br>全国いっせい調査参加                     | 調査結果中間集計<br>HP掲載                       | 調査結果中間集計<br>HP掲載           | 調査結果中間集計<br>HP掲載           | 調査結果中間集計<br>HP掲載           | 調査結果中間集計<br>HP掲載           | 調査結果中間集計<br>HP掲載           | 調査結果中間集計<br>HP掲載                 | 調査結果中間集計<br>HP掲載      | 調査結果最終まとめ<br>HP掲載           |
| ワークショップメンバー(代表専門家・世話人等) | 実施計画検討・推進体制づくり | 調査者への指導相談<br>調査前事前調整WS、説明会での指導 | 全国いっせい調査参加                                 | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討、流域をつなぐ1号発行? | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討 | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討 | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討 | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討 | (中間集計検討)<br>交流会・パンフレット企画検討 | (中間集計検討)<br>パンフレット案作成、流域をつなぐ2号発行 | (中間集計検討)<br>パンフレット案検討 | (中間集計検討)<br>発表交流会、パンフレット案検討 |
| 調査スタッフ(団体・個人)           | 調査スタッフへの応募     | 説明会参加<br>5月30日                 | 調査・報告<br>6月6日、6月27日(2回)<br>全国いっせい調査参加(6/6) | 調査・報告<br>7月25日                         | 調査・報告<br>8月29日             | 調査・報告<br>9月26日             | 調査・報告<br>10月31日            | 調査・報告<br>11月28日            | 調査・報告<br>12月26日            | 調査・報告<br>1月30日                   | 調査・報告<br>2月27日        | 調査・報告<br>発表交流会              |
| 学校・生徒                   | 調査への応募         | 説明会参加<br>5月30日                 | 調査・報告<br>6月6日、6月27日(2回)<br>全国いっせい調査参加(6/6) | 調査・報告<br>7月25日                         | 調査・報告<br>8月29日             | 調査・報告<br>9月26日             | 調査・報告<br>10月31日            | 調査・報告<br>11月28日            | 調査・報告<br>12月26日            | 調査・報告<br>1月30日                   | 調査・報告<br>2月27日        | 調査・報告<br>発表交流会              |

(9/17-19宮川流域エコミュージアム全国大会)

(発行 H16年度)

|   |                  |        |
|---|------------------|--------|
| 県 | ルネッサンス協議会へ委託(契約) | 精算報告受領 |
|---|------------------|--------|

(別紙)

平成16年度の経過

(平成16年)

- ・ 4 / 18 (日) クリーン小作戦、宮リバー河川敷及び伊勢市船江桧尻川にて実施。
- ・ 4 / 21 (水) 宮川流域ルネッサンス協議会総会にていっせいチェック予算が承認され、門野ワシテーターがいっせいチェックの取り組みを報告(ワシテーター伊勢)。
- ・ 5 / 19 (水) 第1回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 全国調査・調査方法・調査箇所等検討
- ・ 5 / 30 (日) 調査スタッフ全体説明会(大台町健康ふれあい会館) 水質バック渡し
- ・ 6 / 6 (日) 全国一斉調査基準日(5月度調査分(第1回目))
- ・ 6 / 27 (日) 6月度調査基準日(第2回目)
- ・ 6 / 29 (火) 宮川流域ルネッサンス協議会幹事会にて二見町の廃油リサイクル(BDF)取り組みを住民課長より紹介、パッカー車体験も
- ・ 6 / 30 (水) 全国一斉調査報告書を流域で取りまとめ、全国一斉調査事務局(東京)へ報告書提出。
- ・ 7 / 7 (水) 国土交通省全国一級河川水質調査結果発表で宮川が2年連続で日本一認定(平成3年、12年、14年、15年)
- ・ 7 / 14 (水) 第2回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、H17年度以降のあり方議論等
- ・ 7 / 25 (日) 7月度調査基準日(第3回目)
- ・ 7 / 28 (水) 度会町教育振興会環境教育部会にて話題提供(小川郷小)
- ・ 8 / 1 (日) 第9回円卓会議「地域振興」(庁舎)
- ・ 8 / 4 (水) 地域の個性を生かした流域圏づくり情報交換会(津)
- ・ 8 / 12 (木) 第1回調査結果をホームページに掲載(H16年度初)
- ・ 8 / 24 (火) 第3回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論等
- ・ 8 / 29 (日) 8月度調査基準日(第4回目)
- ・ 8 / 30 (月) 第2回調査結果考察をホームページに掲載(6月分)
- ・ 8 / 30 (月) 二見町住民課へ家庭用廃油リサイクル取組みのリバーボイス取材
- ・ 9 / 3 (金) H16年度51ポイント通信創刊号完成、配布開始
- ・ 9 / 17 (金) ~18(土) 宮川流域エコミュージアム全国大会(アーナ、15分散会)
- ・ 9 / 22 (水) 第4回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論、先進地調査等
- ・ 9 / 26 (日) 9月度調査基準日(第5回目)
- ・ 9 / 29 (水) 台風21号・大雨による災害発生(宮川村(7名死亡・行方不明)、伊勢市)
- ・ 10 / 4 (月) 第3回調査結果考察をホームページに掲載(7月分)
- ・ 10 / 7 (木) 住民啓発パンフ第1回編集会議(庁舎)
- ・ 10 / 19 (火) "第2回編集会議(庁舎)
- ・ 10 / 23 (土) 第10回円卓会議(流量回復・水質保全)(庁舎)
- ・ 10 / 24 (日) 川と海のクリーン大作戦(国交省中部建設局管内)
- ・ 10 / 26 (火) 第5回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、円卓会議ワシテーター提案議論、先進地調査等
- ・ 10 / 31 (日) 10月度調査基準日(第6回目)
- ・ 11 / 5 (金) エコミュージアム全国大会分散会報告会(大台町)
- ・ 11 / 10 (水) 第4回及び5回調査結果考察をホームページに掲載(8・9月分)
- ・ 11 / 12 (金) 住民啓発パンフ第3回編集会議(庁舎)
- ・ 11 / 21 (日) 宮川上流災害現地調査(桧原、大杉、久豆方面)
- ・ 11 / 26 (金) 第6回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 上流災害現地調査結果報告、考察 HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、円卓会議ワシテーター提案議論、先進地調査等
- ・ 11 / 28 (日) 11月度調査基準日(第7回目)
- ・ 12 / 6 (月) 住民啓発パンフ第4回編集会議(庁舎)
- ・ 12 / 15 (水) 天地の恵み会を訪問し、住民パンフ用子供絵画、誌の作品借用
- ・ 12 / 16 (木) 宮川流域大好き宣言キャンペーン活動伊勢市役所ロビーで実施(両坂本さん呼びかけ)。5名参加で55名の賛同を得る。
- ・ 12 / 21 (火) 第7回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) キャンペーン報告、考察 HP公表事前検討、発表交流会等議論、住民パンフ検討、51ポイント通信検討、円卓会議ワシテーター提案議論、先進地視察検討等
- ・ 12 / 24 (金) 身近な水環境の全国いっせい調査(第1回)の結果発表(国交省)
- ・ 12 / 26 (日) 12月度調査基準日(第8回目)

(平成17年)

- ・ 1 / 5 (水) 第6、7回調査結果考察をホームページに掲載(10・11月分)
- ・ 1 / 13 (木) 住民啓発パンフ第5回編集会議(夜・庁舎)
- ・ 1 / 17 (月) 自主勉強会「流域再生検討会(第1回)」(門野・田中氏呼びかけ・7名参加・大台・夜)
- ・ 1 / 26 (水) 第8回ワークショップ(大台町健康ふれあい会館) 考察 HP公表事前検討、発表交流会等検討、住民パンフ検討、51ポイント通信検討、先進地視察検討等
- ・ 1 / 29 (土) 第11回円卓会議(第3回森林保全)(庁舎)
- ・ 1 / 30 (日) 1月度調査基準日(第9回目)
- ・ 2 / 4 (金) 第8回調査結果考察をホームページに掲載(12月分)

- ・ 2 / 5 (土) 守ろう清流！宮川流域いっせいチェック発表交流会開催（85名参加・  
UIルビ7伊勢）：流域代表発表、代表専門家解説、記念講演（二見町 BDF、  
菜の花プロジェクトネットワーク）、「川よ」合唱、意見交換、各種展示等
- ・ 2 / 5 (土) H16年度51ポイント通信第2号完成、配布開始（発表交流会にて）
- ・ 2 / 9 (水) 滋賀県へ先進地視察：あいとうエコプラザ（BDFプラント、くん炭  
プラント等）、琵琶湖博物館（12名参加）
- ・ 2 / 15 (火) 2005身近な水環境全国一斉調査申込み
- ・ 2 / 16 (水) 地球温暖化防止京都議定書発効（日本は2012年までに6+8=14%のCO2  
削減義務生じる）
- ・ 2 / 23 (水) 第9回ワークショップ（大台町健康ふれあい会館）考察HP公表事前  
検討、発表交流会・先進地視察結果報告等、住民パンフ検討、51ポイ  
ント通信検討、円卓会議ファシリテーター提案議論等

# 平成16年度「守ろう清流！宮川流域いっせいチェック」 (水環境調査) ワークショップ (第9回) 議事録

H17.2.23 (水) 19:00-21:55  
大台町健康ふれあい会館

(参加者)・WS参加者 西、門野、田中、中森、浦、坂本(照)、畑、橋本、  
(敬称略) 西出(宮川村産業課)、保田(宮川村環境課)  
・事務局 滝尻  
計 11名

## 1 あいさつ等

門野 ファシリテーターから、過日の2行事(発表交流会、先進地視察)への協力・参加に対する感謝等のあいさつが述べられた。

## 2 これまでの経過

・事務局より、前回ワークショップ以降の経過について報告があった(森林円卓会議、12月分結果HPアップ、発表交流会開催、51ポイント第2号通信発行、愛東IOPラジ視察、全国調査申込み、京都議定書発効等)

## 3 協 議

### (1) 第9回目調査(1/30)の結果の分析と考察

・代表専門家の鳥本氏(欠席のため事務局代理)及び橋本氏より考察案を提案していただき、検討を行った。

(主要議論)

- ・上流域など特に岸辺植物が無惨に削り取られているが、復元に要する時間はどれくらいか?→A 小規模破壊には川辺植物は強いが土砂流亡であれば時間がかかる。埋土種子から復元する可能性もある。
- ・中流や最下流などに流木や自然ごみ多いとの報告があり、災害の影響が継続しているようだ。
- ・河川掃除の際に川辺植物の刈り取りについて賛否両論あるが真偽は?→A 枯れたものは刈り取らないといけませんが、成長過程にあるもの(青々している)ものは水質浄化に貢献するので残した方がよい。

### (2) 2/5発表交流会及び2/9先進地視察の振り返りについて

事務局より開催結果の概要報告があり、参加者から補足説明があった。

- ・あいとう菜の花IOPラジを視察したメンバーから、IOPラジは数億円もかけており立派な施設であるが、それに見合う生産計画が説明では示されず、むしろ(説明者は)集客効果を期待しており、今後の確たる見通しがなかったのが残念、などの感想が出された。

### (3) 今年度の進め方について

#### ア、住民啓発パンフレットについて

最終原稿(ゲラ)の検討を行った。その結果、流域地図上の魚類の位置をより実態にあったものに修正し印刷工程に移すこととなった。(3/15～発行・流域全戸配布へ)

#### イ、「流域をつなぐ」(51ポイント通信)について

坂本編集委員より次の提案があり了解された。

- ・発行予定：平成17年3月末ころ
- ・内 容：発表交流会結果報告(講演要旨も)、先進地視察報告、上中下流の情報紹介等

### (4) 今後の進め方について

#### ア、来年度(H17年度)の計画について

・事務局より、調査は基本的にこれまでの方法・体制で継続実施すること、調査スタッフの負担軽減と裾野拡大のためにリバーボイス3月号に新規調査スタッフ確保募集のため募集記事を掲載する旨の提案があり、協議を行った。

・その結果、基本的にその方向で行くが、調査も3年を経たので調査項目の見直しを行うことや例えば鳥や生き物のシートを配布しより広い視野での調査ができるようにするなどの提案があった。(→見直しは今後代表専門家中心に検討、シートは原稿あればカラコピーとシーリングは事務局対応可能)

#### イ、身近な水環境の全国いっせい調査(第2回)の参加実施について

- ・事務局より、前回WSの結果を受け調査実行委員会あて申込みを行った旨報告があった。
  - ・調査日：平成17年6月5日(日)(世界環境デー・「環境の日」)
  - ・実施主体：全国水環境マップ実行委員会(事務局(財)河川環境管理財団)

#### ウ、第10回円卓会議(流量・水質)での木本フィルター提案を受けての具体的動き

- ・事務局より下記木本提案に関するその後の状況報告(下記)があった。特に議論なし。
  - ①「いっせいチェックの充実」については、県費減に対する経費面での新対応として
    - ・調査資材費及びHP経費はルネサンス協議会で予算要求中。
    - ・発表交流会及び住民啓発パンフ経費については、引き続き県委託事業で要求中。
  - ②「二見町BDF事業の流域展開」については、2/5の発表交流会記念講演やリバーボイス等で広く啓発し、また2/9あいとう先進地視察によりWSメンバーの意識向上を図った。
  - ③「住民自らの自治会等への啓発活動」については特に動きなし。

## 4 その他

### ア、話題提供

- ・HP冊子年度末発行・配布について(事務局)

調査スタッフを対象に、年度末をめぐりにいっせいチェックHPの簡易な冊子を作成配布予定であることが報告された。

- ・9/29災害時におけるダム放流についての宮川村内説明会の結果及び森林整備の受け皿等について(N氏)

ダム管理事務所と企業庁から宮川ダムと三瀬谷ダムの洪水調整・放流経緯について説明があったが経過説明のみで今後の対策などは触れられなかった。そのため安全性を心配する住民から厳しい意見が出されたが、旧態依然のダム管理マニュアルの見直しや流域住民が連携する取り組みが今後必要ではないか。緑のダムを守るため間伐は緊急課題であり保安林整備事業も用意されていたが林道災害により現地へのアクセスが不可能なことから事業を縮小せざるを得なかった。そのため現在、森林整備のため間伐材ペレット生産構想を計画中であり下流から森林整備の必要性を訴えてもらえれば上流は受け皿を用意可能。フォレストピア等公共施設暖房に導入すればエネルギー循環型・CO2対策にもなる。以前村内でバイオマス利用シュミレーションを実施したところペイしないとの結論だったが、ネックである材の搬出に森組でなく地域熟練剰余労働力等を活用することで実現の可能性がある。ダム管理マニュアルについても、現在宮川ダムは利水・治水の両方を担っているがもはや費用対効果から発電は疑問であり、今後これを治水優先にシフトするなかでマニュアルの変更が必要ではないか。

- ・森林整備(間伐)推進のための新産業(木炭製造)の試みについて(K氏)

1/17流域再生検討会の成果として宮川村栗谷で取り組んだ木炭を試作したので、U氏紹介の木炭ユーザー(焼き肉チェーン)に試験納品することになった。先行有利性を活かし品質OKなら今後生産体制を充実し、森林整備につなげたい。

### イ、次回開催日程(今年度最終)

とき：3月18日(金)19時00分から

ところ：大台町健康ふれあい会館第3集会室

(お断り：前回WSでは3/17(木)で調整いただきましたが、事務局都合により18日に変更させていただきます。ご了承をお願い致します)

事務局

宮川流域ルネサンスP 滝尻  
電話0596-27-5411  
fax 0596-27-5418  
mail nmiyare@pref.mie.jp

# 平成16年度「守ろう清流！宮川流域いっせいチェック」 (水環境調査)ワークショップ (第8回) 議事録

H17.1.26(水) 19:00-21:55

大台町健康ふれあい会館

(参加者)・WS参加者  
(敬称略)

西、門野、堀井、田中、中森、中野、浦、坂本(照)、畑、坂本(剛)、  
中村(宮川漁協)、橋本、西出(宮川村産業課)、橋井(大台町生活  
環境課係長)、阪本(伊勢市環境政策課)

・事務局  
計

滝尻  
16名

## 1 あいさつ等

門野ファシリテーターから簡単なあいさつがあり、流域再生自主勉強会を立ち上げた中で、中国市場の関係で現在は木炭が不足気味でありニーズは高いことや栗谷地区では木炭製造の潜在能力がまだあることなどの情報が共有化された結果、両者を結びつける新しい動きが具体化する見込みであることが紹介された。

## 2 これまでの経過

・事務局より、前回ワークショップ以降の経過について報告があった(住民パンフレット編集会議、自主的勉強会「流域再生検討会」第1回開催、10・11月結果考察HP掲載等)

## 3 協 議

### (1) 第8回目調査(12/26)の結果の分析と考察

・代表専門家の鳥本氏(欠席のため事務局代理)及び橋本氏より考察案を提案していただき、検討を行った。

(主要議論)

- ・洪水のために河床が高くなったが、河川断面が小さくなったかどうかは調査しないと不明(土砂採取は微妙?)。
- ・流木等のごみがまだ多い。下流は国交省が整理したが、上流は重機入れず放置状態だ。
- ・流域は流域の人間が守るしかない。
- ・川岸にイノシシや鹿の死骸が漂着し小学生などが目にしている。

### (2) 今年度の進め方について

#### ア、発表交流会について

- ・2/5開催に向け最後の調整を行った。
  - ・開催日程 平成17年2月5日(土) 13:00～(集合11時)
  - ・開催場所 ウエルサンピア伊勢 ふれあいの間
  - ・役割再確認
  - ・一般住民にも呼びかける。
  - ・企画運営の主役はワークショップメンバー

#### イ、住民啓発パンフレットについて

編集委員による5回の検討会議を経て作成された原稿の提案を受け検討を行った。

(主要議論)

- ・流域地図を拡大し生き物を写真表示する。魚類等の写真に名前を入れる。本流を明確に表示するなど。

(今後の日程)

- ・2月 最終調整
- ・3月 印刷及び流域全戸配布(リバーボイス同封)へ

#### ウ、先進地視察について

事務局より計画の説明と参加者の確認を行った。その結果6名が参加希望を表明。

- ・日 程：平成17年2月9日(水)
- ・交通及び参加者：県マイクロバス使用、WSメンバー、市町村・県職員、事務局等参加
- ・視察先：滋賀県愛知郡愛東町妹 道の駅あいとうマーガレットステーション、工房サ(財団法人 愛の田園振興公社)、滋賀県立琵琶湖博物館



- ・目的内容：菜の花プロジェクトの現地調査（BDFプラント、菜花生産地）等

## エ、「流域をつなぐ」（51ポイント通信）について

編集委員（坂本・畑さん）からの原稿提案を受け、協議。

- ・発行予定：遅くとも2月5日（土）の発表交流会に間に合うよう印刷・配布する。
- ・内容・構成：災害調査結果報告、上中下流の情報紹介、その他
- ・検討修正事項→流域地図に写真番号付記等

## (4) 今後の進め方について

### ア、身近な水環境の全国いっせい調査（第2回）の参加について

昨年初実施され、宮川流域も参加した当全国調査の結果概要が国交省HPで公開されたため事務局より紹介。併せて当調査の主催者より第2回目調査への参加依頼があったことが事務局より報告され協議を行ったところ、全員一致で参加を決定した。なお本調査の認知度が低いこと、またメリットが不明確であるためその旨、主催者に適切な対応を要望することとなった。

- ・調査日：平成17年6月5日（日）（世界環境デー・「環境の日」）
- ・実施主体：全国水環境マップ実行委員会（事務局（財）河川環境管理財団）

### イ、第10回円卓会議（流量・水質）での木本ファシリテーター提案を受けての具体的動き

時間がなく未協議。（①いっせいチェック充実②二見町BDF事業の流域展開③住民自らの自治会等への啓発活動）

## 4 その他

### ア、話題提供

- ・1/17流域再生検討会（門野・田中氏呼びかけ）の結果について  
呼びかけ人の門野氏より検討内容について報告があり、最近の木炭ニーズ増加を背景に、村内（夢楽）で試作する計画であるが、材料運搬が重労働で煙害問題もありこのため移動式がまが考案されていることなどの報告があった。
- ・昨年の災害時の洪水（情報）について  
M氏より、昨年9月の災害当時に河川洪水に関する情報がなかったと思っていたが、実はHPで情報提供されていたこと、しかしその情報の存在が周知されていなかったことが問題であり特に高齢者等はIT情報にはアクセスできないことから、その対策強化を関係当局に要望した旨の話題提供があった。また宮川ダムはS30年代前半のもので当時と今とでは森林形態等前提条件が変化していることから、利水及び洪水調整容量についての見直しが必要ではないかとの指摘があった。  
これについては活発な意見が出て、森林保全は単なる税金投入だけでは続かず、何らかの「産業」に結びつけることが大事だ、とか、当時と違い「発電」は今日「公」が担う必要があるのかという疑問も出された。また三瀬谷ダムは宮川ダムと異なり洪水調整機能はないこと、しかし善意で調整していることを初めて知った、との発言もあった。ダムの強度についての不安も出され、熊本ではダムを初めて壊す計画があるが宮川でもダムコンクリートの寿命が来るときにその議論になるだろうとの見通しが示された。また生物関係では、ダム湖に流入した細かく黄色い浮遊粒子が一気に流出したため下流のアサリが酸欠により大量死亡したこと、秋産卵されたアユの卵は2～3日中には海水域に入る必要があるが、今年は（洪水のため）大量死亡したと推定されるとの情報提供がなされた。
- ・別紙新聞記事（バイオディーゼル等）
  - ・その他

### イ、次回開催日程

- ・協議の結果、次のように決定した。
  - とき：2月23日（水）19時から
  - ところ：大台町健康ふれあい会館

事務局

宮川流域ルネッサンスP 滝尻  
電話0596-27-5411  
fax 0596-27-5418  
mail nmiyare@pref.mie.jp

## 守ろう清流！宮川流域いっせいチェック発表交流会参加者アンケート結果

1 主催：宮川流域ルネッサンス協議会

(企画・運営：守ろう清流！宮川流域いっせいチェックワークショップ)

2 日時：平成17年2月5日(土) 13:00~16:45

3 場所：ウエルサンピア伊勢(伊勢市佐八)

4 参加者：いっせいチェック調査スタッフ(小学生含む)、同ワークショップメンバー、一般住民、市町村・県関係者、大学関係者等小計79名+講師2名+事務局4名=85名

5 アンケート回答数等：12名(回答率12/79=15.1%)

6 アンケート内容及び集約結果：下記のとおり

Q1：今回の発表大会を何でお知りになりましたか。

- ・新聞(0名) ・インターネット(0名) ・チラシ(1名) ・メルマガ(2名)
- ・加入団体から(4名) ・知人から(3名) ・その他(DM、ワークショップスタッフとして企画)

Q：本日の大会はいかがでしたか？

- ・よかった(11名)(その理由・滋賀県の例、宮川ダムの放流のタイミング。
  - ・実体験で示されて良かった。
  - ・二見町の取り組み発表。
  - ・宮川の源流の話が聞けたこと。
  - ・発表も良かったですが、講演も参考になった。
  - ・具体的に取り組んでいる二見町、滋賀の例が聞けたこと。
  - ・年齢の幅あり。多角的で。)
- ・よくなかった(0名)(その理由・)
- ・わからない(0名)(その理由・)

Q：(調査スタッフの方にお聞きします)

いっせいチェック調査に参加されてよかったと思われませんか？

- ・よかった(3名)(その理由・宮川の上流から下流まで、当然繋がるべき「人」の繋がりを持てること。)
- ・よくなかった(0名)(その理由・)
- ・わからない(0名)(その理由・)

Q：調査結果は宮川流域ルネッサンス協議会のホームページに掲載されています。あなたはこれをご覧になりましたか？

- ・見たことがある(5名) ・見たことがない(6名) ・プリントしたものを見た(0名)

Q：本日の発表大会は、調査スタッフの住民有志の方が中心となって企画・運営をしています。

こういう形をどう思われますか？

- ・大変良いこと(11名)
- ・ルネッサンス協議会・行政がやればよいこと ( 0名)
- ・わからない ( 0名)
- ・その他 ( 1名) (・参加市町村の公共施設を利用し、まわりもちで行ったら。)

Q：当ルネッサンス協議会は、流域を巡る水質保全・流量回復問題の課題解決等について、住民や行政、団体等の代表が協働の精神で論議する「円卓会議」を継続開催しています。これについてどう思われますか？

- ・住民代表として論議に参加したい ( 0名)
- ・傍聴参加したい ( 7名)
- ・知らない ( 0名)
- ・関心がない。 ( 0名)

Q：「宮川」について一言お願いします。

- ・今の状況は環境問題一辺倒？伝統芸能等の文化活動も取り上げて欲しい。
- ・一人一人の心がけが大切。呼びかけて少しでもきれいな宮川にしたい。
- ・あまりにも身近にありすぎて考えたこともなかったですが、色々な顔を持つことを改めて考えました。
- ・私の第一の故郷は、伊勢市です。清流宮川が大好きです。この宮川をいつまでもきれいな川であってほしい。この運動にできる限り参加したい。
- ・清流のイメージをイメージだけでなく本物に。
- ・災害により荒廃している現在の宮川を復興したい。
- ・治水を優先する宮川ダムに方向を変えてほしい。(マニュアルの見直し、早い目の放水)
- ・間伐の推進、間伐材の資源化、経済効果率高く。
- ・日本の農林産業の振興(国策化)助成等推進施策を。
- ・自然の流れに逆らわないよう生きよう。
- ・昔はもっと良かった。
- ・本当に清流日本一にするには、本・支流の流域住民や企業等からの汚水・排水をいかに規制するかが課題である。家庭ならできるだけ合成洗剤を使用しない、企業なら基準をクリアする浄化槽の設置を条件とする。ダムは、電気を送るのに必要ではあるが、日本一の清流には要りません。

あなたのことを教えてください

- ・ 在住市町村 伊勢市 (3名)、玉城町 (1名)、御園村 (1名)、度会町 (3名)、  
流域外 (津市、志摩市各1名)
- ・ 性別 女性 ( 2名)、 男性 ( 8名)
- ・ 年代 20歳以下 ( 0名)、21～40歳 ( 1名)、41～60歳 ( 6名)、  
61歳以上 ( 3名)

# 宮川流域ルネッサンス円卓会議の開催状況

## ■キックオフ大会

(日時)平成14年11月4日(祝)10:00~12:00 (場所)ウェルサンピア 伊勢ふれあいの間 (参加人数)約100名  
(ファシリテーター)

野田宏行氏(生態系・三重大学名誉教授)、木本凱夫氏(流量水質・三重大学助教授)、松村直人氏(森林・三重大学助教授)、目崎茂和氏(地域振興・南山大学教授)

(概要)①円卓会議の開催主旨説明(情報の提供・共有、課題整理を通じて役割分担による協働をめざす)

②記念講演「宮川流域の未来を創るのはそこにすむひとびと」 今井信五氏(日本エコミュージアム研究会理事)

## ■ 第1回円卓会議(第1回「流量回復・水質保全」)

(テーマ)「宮川の流量回復・水質保全について」

(日時)平成15年1月25日(土)10:00~12:00 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)46名

(ファシリテーター)木本凱夫(三重大学生物資源学部助教授) (コメンター)住民委員、団体代表、市町村代表、県、国 17名

(概要)①担当事業(行政側)や活動内容(NPO等)の情報提供

- ②主要意見
- ・選択取水ができてみわすか0.5t。貯水池を拡大し240万tとしても10日しか余裕がない。これでは水田を養えないのではないか。
  - ・コンクリート張りの川を自然に戻すような工法の検討を望む。
  - ・「いっせいチェック」から一歩踏み込んで、清流日本一の宮川を守るため住民と行政の協働の取り組みを望む。

## ■ 第2回円卓会議(第1回「地域振興」)

(テーマ)「宮川流域のエコミュージアムを中心とした地域振興」

(日時)平成15年3月9日(日)13:30~16:30 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)33名

(ファシリテーター)目崎茂和(南山大学総合政策学部教授) (コメンター)住民委員、団体代表、流域案内人、市町村代表、県 15名 (アドバイザー)石原義剛(海の博物館長)、今井信五(日本エコミュージアム研究会理事)

(概要)①各活動内容(NPO等)や宮川流域エコミュージアムづくりの現状と課題に関する話題提供。

- ②主要意見
- ・エコミュージアムづくりでもっとも大切なのは市町村行政との連携。住民との連携強化を望む。
  - ・活動する人には女性が多く、会議をするのは男性が多い。
  - ・人材、とりわけ定年を超えた人は財産であり、このマネージメント、システム作りを望む。
  - ・エコミュージアムには大きなハコモノは不要だが、情報発信基地としてのセンターは必要。

## ■ 第3回円卓会議(第2回「地域振興」)

(テーマ)「宮川流域のエコミュージアムを中心とした地域振興」

(日時)平成15年5月24日(土)13:30~16:55 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)44名  
(ファシリテーター)目崎茂和(南山大学総合政策学部教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、流域案内人、市町村代表、県 14名 (アドバイザー)石原義剛(海の博物館長)、今井信五(日本エコミュージアム研究会理事)

(概要)①県・協議会が提案した宮川流域エコミュージアム推進計画案に対する検討・議論。

- ②主要意見
- ・エコミュージアムはかたちではなく考え方であり、住民が自ら創るもの。まずエコミュージアムとは何なのかをまず理解することが重要。
  - ・広い流域市町村をまとめるには県が主導権を持って進めていくことが重要。
  - ・宮川流域エコミュージアム憲章的なものをつくり、それに賛同すれば加入してメリットを享受でき、反対に加入しなければ制限を加えることも必要では。
  - ・センターは、案内人の交流の場となり、今後発生する課題の調整機能が果たす場として必要。
  - ・資格、能力ということになると自分としては何もなく辞退せざるを得ない。

## ■ 第4回円卓会議(第1回「森林保全」)

(テーマ)「宮川流域の森林保全」

(日時)平成15年6月22日(日)13:30~16:30 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)30名

(ファシリテーター)松村直人(三重大学生物資源学部助教授) (コアメンバー)住民委員、企業代表、団体代表、市町村代表、県 13名

(概要)①各活動内容(NPO等)や業務内容(企業)、担当事業内容(行政)について話題提供。

- ②主要意見
- ・森林環境創造事業など各種制度の手続きが複雑。円滑な事業展開のためにも、手続きを簡素化してほしい。
  - ・制度の採択基準が硬直化しているので、実際の現場作業では不都合が生じる。柔軟な対応が望まれる。
  - ・住民がボランティアで参加できることは多く、ニーズも多い。危険性の少ないことから始めたらよい。
  - ・極度に疲弊している国内林業を復活させるためにも、環境に配慮しない外材輸入を制限すべき。

## ■ 第5回円卓会議(第2回「流量回復・水質保全」)

(テーマ)「水質保全・流量回復をめぐる住民・行政の協働のあり方」

(日時)平成15年7月19日(土)13:30~16:35 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)39名

(ファシリテーター)木本凱夫(三重大学生物資源学部助教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、市町村代表、県、国 16名

(概要)①前回の報告、流量回復や水質改善の目標と取り組み、市町村の取り組み、宮川日本一復帰の水質調査結果概要、農業と環境との調和、漁協の役割について話題提供。

- ②主要意見
- ・流域各所での「ゴミ柵」の設置とこまめな管理を提案したい。
  - ・流域各市町村の区長会等を対象とした啓発普及活動の展開を提起したい。
  - ・盆の送り火残滓の河川投棄中止を呼びかけたい。
  - ・次回には、各参加セクターが協働的取り組みの一環としてそれぞれ何ができるのか提案してほしい。

## ■ 第6回円卓会議(第3回「地域振興」)

(テーマ)「宮川流域エコミュージアム推進計画案について」

(日時)平成15年8月24日(日)13:30~16:38 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)31名

(ファシリテーター)目崎茂和(南山大学総合政策学部教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、流域案内人、市町村代表、県 15名 (アドバイザー)石原義剛(海の博物館長)、今井信五(日本エコミュージアム研究会理事)

(概要)①前回の報告、前回提案から修正した宮川流域エコミュージアム推進計画案の修正点の報告、案内人等対象アンケート結果の紹介、それを受けた検討・議論。

- ②主要意見
- ・エコミュージアムは活動者、サポート部門、評価する仕組みの3つで構成され、ないのはサポートする場所。県庁舎でなく交通至便の入りやすい場所に電話、パソコンを含め設置すればよい。
  - ・流域案内人を対象とした、活動、会員制度、フィールド、センター等の性格付けを含む要綱を提案する。このうちセンターは情報収集・発信、調整等がありルネサンス協議会に置くべき。
  - ・推進計画案に賛成だが、広範な住民の参画にはわかりやすい組織にすることが重要。流域を通じ各種イベントを体系化すれば地域振興が活発化する。
  - ・案内人はすでに活動開始している。大卒のところ承認されればGOすべきだ。ただ、遺産を引き継いだ地域振興を図るためには「学術委員会」を組織に入れるべき。
  - ・組織運営については、時間はかかるが行政主導から住民主導へ移行する、そのための案修正を了解願いたい。
  - ・財源についても自主財源を確保し住民主導でやっていける宮川流域になってもらいたい。

③了解事項・以上の方向を案に盛り込むことで概ね了解された。

## ■ 第7回円卓会議(第2回「森林保全」)

(テーマ)「宮川流域の森林保全」

(日時)平成15年11月22日(土)13:30~16:30 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)27名

(ファシリテーター)松村直人(三重大学生物資源学部助教授) (コアメンバー)住民委員、企業代表、団体代表、市町村代表、県 12名

(概要)①前回の報告及び、流域住民アンケート概要、FSCの概要と取り組み、国有林保護林保全緊急対策事業、宮川村森林環境創造事業等視察等の報告・話題提供。

- ②主要意見
- ・下流の協力がなければ山は守っていけない。守るには地域材を使ってもらうことが一番であり、そのためには川下住民への理解促進・PRが不可欠。
  - ・外材大量輸入が森林の手入れ阻害の原因。対策として農業用排水路への間伐材の活用が有効で生態系保全と昔の河川復活にもつながる。
  - ・行政レベルでは国でも県でも間伐材の活用を推進中。学校等公共施設への地域材使用や公共工事等への間伐材利用が重要であり推進をしている。

## ■ 第8回円卓会議(第3回「流量回復・水質保全」)

(テーマ)「水質保全・流量回復をめぐる住民・行政の協働のあり方」

(日時)平成16年2月22日(日)13:30~16:35 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)32名

(ファシリテーター)木本凱夫(三重大学生物資源学部助教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、市町村代表、県、国 15名

(概要)①前回の報告、H16年度宮川流量回復関連調査(三浦湾放流関連県予算案)、H15年度宮川流域水環境基本調査(流域レベル水環境特性、排水処理整備状況、住民意識調査等)について話題提供。「流量回復・水質保全の協働実現に向けて各セクターの果たすべき役割、果たせる役割」について事前提出資料を基に討議。

- ②主要意見
- ・二見町での廃食油全戸回収と公用車燃料化の取り組みを補助金を活用して流域に拡大したい。
  - ・流域レベルで水質に関心を持ち観察をしているのはいっせいチェックの取り組み。県予算の終了と共に終わらせるのは惜しいので市町村との関わりを強化したい。またその成果は流域情報誌に掲載するとともに小中学校等との連携により流域への浸透を図るべき。
  - ・水質保全の意識改革を推進するため、流域各市町村の町内会等を対象とした啓発普及活動の展開を提起したい。
  - ・次回には、各参加セクターが協働的取り組みすべき課題を3案程度提案したい。

## ■ 第9回円卓会議(第4回「地域振興」)

(テーマ)「全国大会後の宮川流域エコミュージアムと地域振興」

(日時)平成16年8月1日(日)13:30~16:35 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)22名

(ファシリテーター)目崎茂和(南山大学総合政策学部教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、流域案内人、市町村代表、県 14名 (アドバイザー)吉兼秀夫(日本エコミュージアム研究会会長代行)

(概要)①前回の報告及び、「宮川流域案内人養成の現状と課題」、「宮川流域エコミュージアム全国大会の概要」、「全国大会HP開設」、「宮川流域ガイドブック発行」等について情報提供があり、それを受けた議論を展開。

- ②主要意見
- ・流域案内人のネットワークづくりのため、ホームページを立ち上げたが、年配者が多いこともあり利用が少ない。
  - ・エコミュージアムはまちづくりと≠ではない。結果として観光、地域づくり、福祉等に波及するものであり、非常に科学的な活動がエコミュージアム。
  - ・エコミュージアムは保全の面も強調すべき。外来種植栽の活動などに対するお目付役的なシステムがないと本来の姿から外れて行くのではないか。
  - ・今は核(センター)がない。センターがあれば情報が集まり発信もでき、人も交流でき活動がやりやすくなる。そろそろ必要な時期に来ており、大会後には実現していきたい。

## ■ 第10回円卓会議(第4回「流量回復・水質保全」)

(テーマ)「水質保全・流量回復をめぐる住民・行政の協働のあり方」

(日時)平成16年10月23日(土)13:30~16:32 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)32名

(ファシリテーター)木本凱夫(三重大学生物資源学部助教授) (コアメンバー)住民委員、団体代表、市町村代表、県、国 13名

(概要)①前回の報告、台風21号災害の状況、宮川ダム洪水調整経過、宮川流量回復関連調査(三浦湾放流関連県事業)、宮川用土地改良事業での低コスト化工法について話題提供。

- ②ファシリテーターより、過去の議論を踏まえ水質保全の協働実現に向けた具体的提案(いっせいチェックの充実、廃食油サイクル流域展開、住民主体の啓発活動)あり、それを受けて水質保全の協働実現に向けて討議。
- ③主要意見
- ・いっせいチェックは継続していくべきだが県委託事業は見直しが不可避。今後は協議会支援や企業協賛を追求しいずれは自立の方向だろう。パッケージの精度には限界あるが、住民参加にはこれが妥当な方法。

- ・廃食用油リサイクルは現在、二見町だけの取り組みだが、今後は協議会等からの働きかけにより自治会等の協力の下、とにかく拡大していきたい。
- ・住民啓発活動については、自治会、婦人会等へ出前講座的な形で普及活動を行う方法もある。まずはやるのが大切。
- ・台風21号で人身災害が発生した要因として、間伐の手遅れや間伐手法の問題を指摘する人もいる。しっかりとした現地調査をすべき。

## ■ 第11回円卓会議(第3回「森林保全」)

(テーマ)「宮川流域の森林保全」

(日時)平成17年1月29日(土)13:30~16:30 (場所)三重県伊勢庁舎 大会議室 (参加者)28名

(ファシリテーター)松村直人(三重大学生物資源学部助教授) (アドバイザー)県森林保全室 森秀美室長(コアメンバー)住民委員、企業代表、団体代表、市町村代表、県 13名

(概要)①前回の報告、及び、防災対策関係(21号台風森林災害状況と復旧対策、国有林での災害と保全策)及び森林整備の推進関係(森林環境創造事業・森林再生 CO2 吸収量確保対策事業の現状と課題、木材版地産地消の施策と課題、FSC 取得と今後、森林環境税創設の全国的状況)について話題提供があり、その後協議。

②主要意見 ・森林復旧のためにも被害の多い林道の復旧に注力し3年で復旧したい。人家裏山の崩壊多発に対し集落防災間伐関係の新規事業を検討中。

・県産材の利用拡大に向け、年度内に公共土木工事を対象とした利用推進指針を策定、また新年度には県産材住宅建設に対する補助制度や産地認証制度等を新設予定。

・森林環境税は県民への PR 効果もあり是非導入してほしいが、税を払えばそれだけで環境は守れるとの誤解を招かないようにしてほしい。

・京都議定書が2月に発効し CO2 減少分6%のうち3.9%を森林整備で賄うことになる。環境省で炭素税構想もあるが産業界の反対もあり継続審議となった。用途も不明確であり、県としては森林新税を含めて今後検討予定。

## ■ 今後の円卓会議予定

- ・順次、各テーマごとに開催を予定。